



綾小学校ユネスコスクール加盟(2014年)



綾小学校の自然観察会



綾中学校ユネスコスクール加盟(2014年)



中学生対象の講座

登録10年の取り組み報告③
ユネスコスクールとの連携でSDGsの実現に貢献

ユネスコエコパークに求められる機能には、環境保全や経済活動のほかに、将来に向けた人材育成など教育分野への貢献も含まれています。ユネスコエコパークはSDGs(持続可能な開発目標)の実現に貢献するESD(持続可能な開発のための教育)の実践の場として有用とされ、ESDの推進拠点として位置づけられている「ユネスコスクール」と連携することにより相乗効果が期待されています。

綾小・中学校は平成26(2014)年にユネスコスクールに加盟しており、ユネスコエコパークと連携した取り組みが行われています。ユネスコエコパーク推進室では、年に数回、小・中学校の「総合学習の時間」に出前授業を行っています。例えば小学4年生には、ふるさとの自然の探求を目的に、近くの自然散策路やビオトープで自然や生きものを観察する講座を行っています。

中学1年生を対象にした講座では、霧島ジオパークや祖母・傾・大崩ユネスコエコパークなど近隣の地域との比較を通じて、地元の自然の豊かさや大切さを感じてもらえるよう

に、綾ユネスコエコパークセンターでの講話や照葉大吊橋周辺の森などでの観察を行っています。今年2月には、ユネスコエコパークのネットワークを通じて、ESD活動に取り組む全国の学校の成果発表会がオンラインで開催され、綾中学校の生徒による実践発表もありました。

ユネスコスクールである綾小・中学校だけでなく幼稚園や保育所などとも連携して、幼・保・小・中の一貫した取り

組みとして、0〜15歳までの15年間を見通した系統的・発展的な学習につなげていくことも重要です。今後も、さまざまな教育の現場でユネスコエコパークをうまく活用しながら、教育関連機関と一緒に未来の綾町を担う子どもたちの育成を目指していきます。

ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するために、平和や国際的な連携を実践する学校のこと。現在、世界182の国および地域で1万1千校以上が加盟。国内では幼稚園、小・中・高校および教員養成学校を含め1,120校あります。

綾ユネスコエコパーク推進室・ユネスコエコパークセンター
☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館

column

ミンサザイ

漢字では「溝些細」と書きます。溝は谷筋を、些細は小さなことを意味しており、名前のとおり山地の渓流沿いに住んでいる日本で最も小さな鳥の一種です。

体長は10cm程度しかなく、遠目ではゴルフボール位の大きさに見えます。谷筋の倒木や岩の下を素早く動き回り、昆虫などを食べています。春から夏にかけて、岩などにコケでつぼ状の巣をつくり繁殖します。

最大の特徴は、短い尾をピンと立てて体に似合わないほどの大きな美しい声で鳴くことです。一夫多妻なので、複数のメスにアピールしようとありったけの力でさえずり続けているのかもしれないね。



ムラの肖像

1950年代に撮影されたこの写真は、陣之尾の開拓の様子がかげえる貴重なものです。

入植した人々は、皆で協力して鍬(くわ)で山や原野を開墾し農地を作っていました。当初はサツマイモを栽培する農家が多く、養蚕が盛んになった時代もありました。「お蚕さま」と呼んで大事にしていたといいます。その後、主要な産業は養鶏に移っていきます。

陣之尾集落は水に乏しい地域で、どの家でも井戸を掘っていました。飲料水や農業などに使う雑用水の確保にはとても苦労したそうです。

開拓により生まれた町内の集落は、竹野・尾立・陣之尾・二反野の4つです。



※昨年11月から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から毎月1点を紹介します